



区長コラム ずっと もっと めぐる

目黒区長 青木英二

皆さん、こんにちは。区長の青木英二です。
 2023年最初の「ずっと もっと めぐる」のお届けになります。
 先月15日、国内で新型コロナウイルス感染症の患者が初めて確認されてから3年が経ちました。国内の感染者累計は3,100万人を超え、亡くなられたかたも6万人を上回りました。さらに、先月は1日当たりの国内死者数が500人を超えて過去最多となる日があったほか、依然として医療機関のひっ迫も伝えられており、まだまだ警戒を解ける状況ではありません。
 一方で、生活や経済の平常化を目指す取り組みも進んでおり、政府が感染症法上の分類見直しやマスク着用目安の緩和を検討していると伝えられています。これらを踏まえ、私からは、「ワクチン接種など、新型コロナウイルスに正しく対処しながら、新しい生活様式に基づき、平常化への歩みを進めていきましょう」と申し上げたいと思います。
 話は変わりまして、先月、多くのメディアで報じられていましたが、昨年の全国のサンマ水揚げ量が、4年連続で過去最低となってしまいました。総務省の調査では、サンマの消費量も減少を続けており、区民の皆さまの中にも、「最近、ほとんどサンマを食べていない」というかたもいらっしゃるのではないかと思います。

今後の水揚げ量の回復のめども立たないとのことで、もはやサンマは「大衆魚」ではないという声も聞かれますが、その背景には、他国漁船による乱獲や気候変動による海流の変化、さらに最近では、日本とロシアの関係悪化を受けた北方領土周辺水域における日本漁船の航行や操業の制限など、複数の要因が考えられています。
 私たちに身近な存在であるサンマですが、このように国際情勢や地球環境問題とも密接に関わっています。
 目黒区政も国際情勢や地球環境問題と無縁ではありません。今月16日から区議会の令和5年第1回定例会が始まります。1カ月以上にわたり、5年度予算案を中心に審議などが行われます。予算案には、物価高騰対策として家計や中小企業に対するさまざまな支援策を盛り込んでいるほか、ゼロカーボンシティの実現を目指す取り組みや地球環境問題対策も含まれています。さらに、新型コロナウイルス対策はもちろんのこと、子ども・子育て支援策も大幅に強化し、防災、福祉、まちづくりの施策など区政全般にわたって審議が尽くされていきます。
 サンマや目黒区政から見える国際情勢や地球規模の問題にも思いをはせながら、区議会の傍聴や議会中継の視聴など、ご関心を持っていただけるようですと大変幸いです。

4年度青少年社会貢献表彰

目黒青少年プラザ ☎5721-8575、☎5721-8577

青少年の日頃の社会貢献をたたえ、健全育成への一層の理解と推進を図ることを目的に、次の1団体・個人20人を表彰しました(敬称略)。

表彰者・社会貢献内容

団体

公共・地域貢献

目黒中央中学校生徒会役員会、学校生活向上委員会	長年にわたり、校門前であいさつをする地域教育懇談会主催のあいさつ運動に参加し、継続的に地域に貢献した。
-------------------------	---

個人

緊急時貢献

江澤菜怜	倒れている男性を発見した際、救急車を要請し、救急隊員の誘導や処置の手助けなど緊急時に貢献した。
------	---

公共・地域貢献

菊池舞香 菊池紘喜	住区住民会議等のイベント時に、参加者を交通指導しながら引率するなど積極的に行動し、地域で安心して活動できるよう貢献した。
--------------	--

岡田晴香	青少年リーダー「ウイングス」の活動に積極的にに関わり、住区住民会議主催のイベントの企画・実施・サポート、放課後子ども教室の手伝いなどを行い、年下のリーダーたちの良きお手本ともなって活動し、地域に貢献した。
------	--

安全・安心貢献

埴潤人 奥田航成 磯野雅友 神山流綸 深沢一瑛 楠本大都	地域の若き防災リーダーとして消防少年団の活動に意欲的に取り組み、自身の防災行動力の向上に努めた。習得した防災に関する知識・技術を後輩団員に指導するなど、他の青少年の模範となり、安全で安心な地域づくりに貢献した。
---	---

伊藤遼 岸本匠海 大橋紅音 稲垣初枝	交通少年団の年長者として、積極的に交通安全キャンペーンや行動訓練などに参加し、団員をまとめた。自らは交通ルールとマナーをしっかりと身に付け、区民に交通安全を呼び掛けるなど、安全で安心な地域づくりに貢献した。
-----------------------------	---

星野瑛斗 秋元陽南子	交通安全キャンペーン、東山特別養護老人ホーム激励などの行事に積極的に参加し、交通事故防止を広く区民に呼び掛けた。自らも交通ルールを積極的に学び実践し、後輩団員の手本となり、安全で安心な地域づくりに貢献した。
---------------	---

社会福祉

小島名奈水 康村安喜 宮本華 三浦愛奈	児童館のボランティアのほか、中学・高校生が作る雑誌「めぐる」の編集部員として活躍。手に取りたくなる内容にするため、地域のかたと交流しながら記事を制作し雑誌を完成させるなど、地域に貢献した。
------------------------------	--

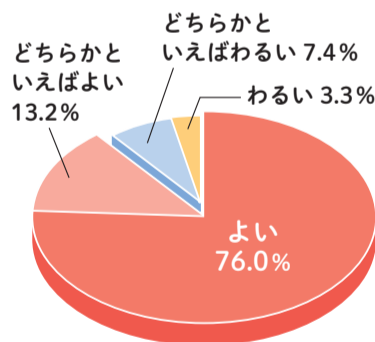
めぐる区報に関するアンケートの結果をお知らせします



目黒広報課区報係 ☎5722-9486、☎5722-8674

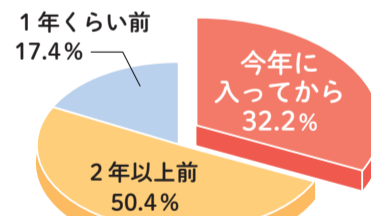
4年8～10月に行っためぐる区報に関するアンケートに、皆さんから122件の声を寄せていただきました。今後さらにめぐる区報を良くしていくため、いただいたご意見を参考に紙面を作成していきます。

Q.現在のめぐる区報についてどう思いますか



約9割のかたから、現在のめぐる区報について「よい・どちらかといえはよい」という回答をいただきました

Q.いつから読んでいますか



「今年に入ってから」と答えたかたのうち、30代以下の約8割が「家のポストに入っていたから」と回答。今年度から開始した全戸配布によるものとも考えられます

読んでみたいカテゴリーベスト3

- 1位 まちづくり(71.2%)
- 2位 防犯防災(61.0%)
- 3位 講習会(60.2%)

「まちづくり」と「防犯防災」は60代未満の全ての年代で、読みたいカテゴリー上位3位に入っていました

選択肢 ①SDGs(持続可能な開発目標)②アート③グルメ④ごみ問題⑤スポーツ⑥パソコン・スマートフォン⑦まちづくり⑧感染症⑨教育⑩講習会⑪高齢者サービス⑫子育て情報⑬防犯防災